県南教育事務所
教　育　情　報

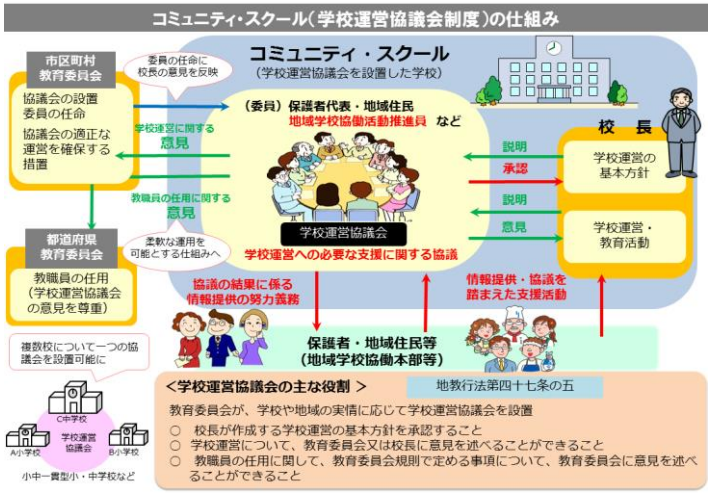
南風 nanpu

令和４年８月１８日（木）
No.　２【 通巻 第185号 】
文責：社会教育主事

令和4年度「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム

７月６日（水）前沢ふれあいセンターを会場に、「地域とともにある学校づくり」推進フォーラムを開催しました。コミュニティ・スクール（以下 CS）に対する考えや思いを深め、地域と学校が目標を共有する大切さを学んでいただくため、講演とパネルディスカッションを行いました。県立学校や地域コーディネーター、PTA 役員、市町教育委員会生涯学習担当者等の参加も含め、総勢 150 名ほどが参集しました。

【 講　演 】
「コミュニティ・スクールがつなぐ学校と地域のこれから」
＜講　師＞
大槌町教育委員会　教育専門官　菅 野 祐 太 氏
文部科学省「コミュニティ・スクールの在り方に関する検討会議」委員



出典：文部科学省 HP　コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組み

【 パネルディスカッション】
「コミュニティ・スクールを導入するということは・・・」
＜モデレーター＞
大槌町教育委員会　教育専門官　菅 野 祐 太 氏
＜パネリスト＞
奥州市立常盤小学校　　校長　　加 藤　　均 氏
奥州市立岩谷堂小学校　校長　　佐 藤 浩 司 氏

【講　演】

菅野先生からは、CS を導入する意義や、地域と学校が目標を共有することの大切さ、学校運営協議会を効果的に機能させていく方策等について大槌町での実践をもとにご教示いただきました。CS の制度が作られた経緯や、国の施策の方向性にも触れながら、質疑応答やグループワークを交えながら説明いただきました。

（菅野氏のお話から）

- **CS には唯一絶対解はなく、あるのは個別暫定解である。**
  （学校や地域の実態に応じて、制度を活用しながら地域の活性化へ。）
- **CS は、学校がすべて取り組むということを前提としていない。**
  （社会教育との連携が不可欠で、学校教育と両輪で推進されるもの。）
- **地域と学校はイコールパートナー、双方の課題解決に向け協力。**
  （運営協議会委員と情報を交換し、学校と地域の課題を共有していく。）
- **コレクティブ・インパクト*を応用して地域とともにある学校へ。**
  （緩やかに連携しながら、同じ方向・目標を目指すことが大切となる。）

＊コレクティブ・インパクト…様々な立場の人が協働して社会課題解決に取り組むためのスキーム

【パネルディスカッション】

パネリストの加藤校長先生、佐藤校長先生から、地域の実態や CS 導入までの経緯、委員の選定、運営協議会での話題や様子等について、お話いただきました。
その後、モデレーターの菅野氏から対話形式で CS 導入に係る学校と地域の連携の秘訣について、参会者の質疑やペアワーク等も取り入れながら、学びを深めました。

（モデレーター・パネリストの先生方から）

- **協議会を開催することで、いろいろな立場の人が一堂に会して熟議することを通し、横のつながりを共有することができた。**
- **それまでは学校が頼んだことに応えるだけだった人達が、「こうしたらどうか」と具体的に言ってくれるようになった。**
- **制度をうまく活用することが大事であり、学校長自身がプラスにとらえ、それを活かすという思いで取り組むことが大切。**
- **コミュニティ・スクールを導入するということは、学校と地域が一体となって子どもを育てるというビジョンを共有することだ。**

参加者の主な感想（一部抜粋）

- ◆　地域との協働が大切であり、学校や地域の課題を共に共有しそれを話し合えるコミュニティをつくりたい。
- ◆　学校が地域をつなげる場になる可能性を感じた。関係の質を高められるよう、対話を大切にしていきたい。
- ◆　学校が困っていることを知ってもらうことで、協働するコミュニティが出来上がるのではないかと考える。
- ◆　導入モデル校としての取組の様子や悩みをお聞きすることで、本校における CS の在り方についても想像できた。
- ◆　「緩やかに連携しながら、同じ方向を目指す」ことが大切。仕組を活かし、目標の共有を図っていく一年にしたい。